

ウンシュウミカン新品種「きゅうき」の特性調査

和歌山県果樹試験場 栽培部 水上 徹

1. はじめに

中生ウンシュウミカン「きゅうき」は、平成26年2月27日に品種登録された和歌山県オリジナルの品種で、主力中生品種の「向山温州」より浮皮の発生が少なく、早生品種のような良食味の果実特性を有する有望品種です。これまで育成地での特性は確認されていましたが、条件の異なる園地での特性については明らかではありませんでした。そこで、条件の異なる複数の園地に「きゅうき」を高接ぎし、果実特性を調査しました。

2. 調査内容

日当たり良好な緩傾斜の3園地(湯浅町田：南向き標高122m、湯浅町山田：北西向き標高40m(尾根沿い)、有田川町吉原：北東向き標高89m)に「きゅうき」を平成23～25年に高接ぎし、平成26年(初結実)および平成27年(結実2年目)の各12月に果実品質を調査しました。また、平成27年には果実肥大、糖度およびクエン酸含有率について経時的に調査しました。なお、対照に同一圃場に植栽されている「向山温州」との比較を行いました。

3. 結果

平成27年、「きゅうき」の着果量が湯浅町山田では多く、湯浅町田では少ない状況でした。

1) 成熟期の果実品質

「きゅうき」の果形指数は「向山温州」と同程度かやや低く、僅かに腰高でした(表1、図1)。糖度は園地間差が大きいものの「向山温州」と同程度でした(表1)。また、クエン酸含有率は「向山温州」と同程度かやや低く、2カ年とも12月上旬には1%以下でした。浮皮程度は、初結実であった平成26年では「向山温州」と同程度もしくは高くなりましたが、2年目の平成27年にはいずれの園地も「向山温州」より低くなりました。

2) 果実肥大・品質の経時変化

「きゅうき」の月別肥大量は、着果程度が少なかった湯浅町田を除き、「向山温州」より小さくなりました(図2)。特に、着果程度の多かった湯浅町山田では、その差も大きくなりました。糖度は、湯浅町田を除き、「向山温州」より高く推移しました(図3)。一方、クエン酸含有率は各園地とも「向山温州」と同様に低下しました(図4)。

4. まとめ

高接ぎの「きゅうき」では、結実初期には「向山温州」と同程度の浮皮発生が認められるものの、樹勢が落ち着けば浮皮の発生が少ない本来の特性が発揮されるものと考えられます。また、果実品質については、「向山温州」と明らかな差はありませんでしたが、園地による差が認められるため、適地性や適正な管理についてさらに検討を重ねる必要があると考えられます。

表1 各調査園地における「きゅうき」および「向山温州」の成熟期の果実品質(平成27年)

調査年月日			横径	果形指数	果実重	果肉割合	糖度	クエン酸含有率	浮皮程度
			mm		g	%	%	(0-3)	
平成27年 12月3日	湯浅町 山田	きゅうき	62.8	128.3	99.2	77.9	13.0	0.84	1.0
		向山	69.8	128.0	121.7	76.0	12.4	0.83	1.8
	湯浅町 田	きゅうき	73.5	126.6	153.5	78.9	10.0	0.73	0.6
		向山	68.3	130.6	108.7	73.0	10.9	0.89	2.2
	有田川町 吉原	きゅうき	66.8	128.2	112.0	76.7	12.3	0.72	1.6
		向山	67.0	127.2	111.5	76.4	11.1	0.78	2.0

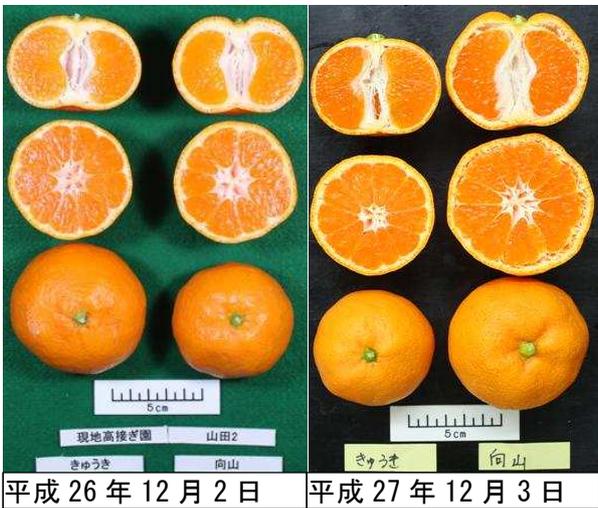


図1 平成26年および平成27年の収穫期の果実(調査園地:湯浅町山田)

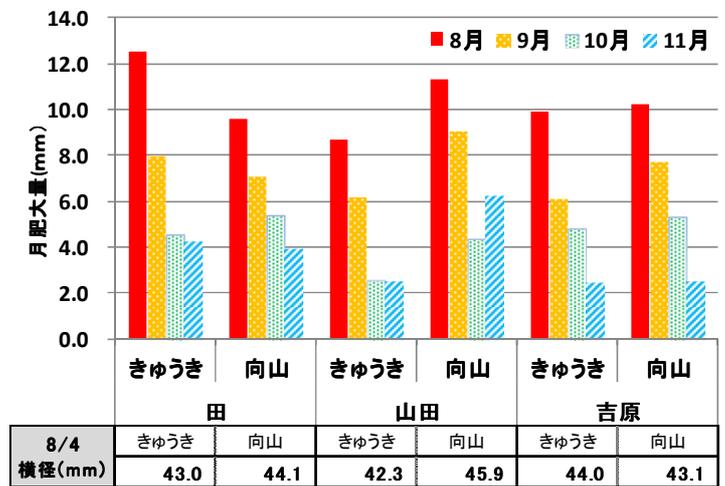


図2 「きゅうき」および「向山温州」の各調査園地の月肥大量(平成27年)

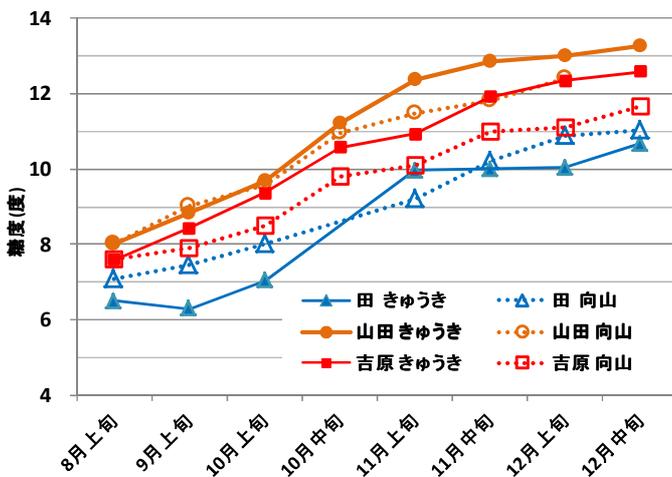


図3 生育期間中の糖度の推移(平成27年)

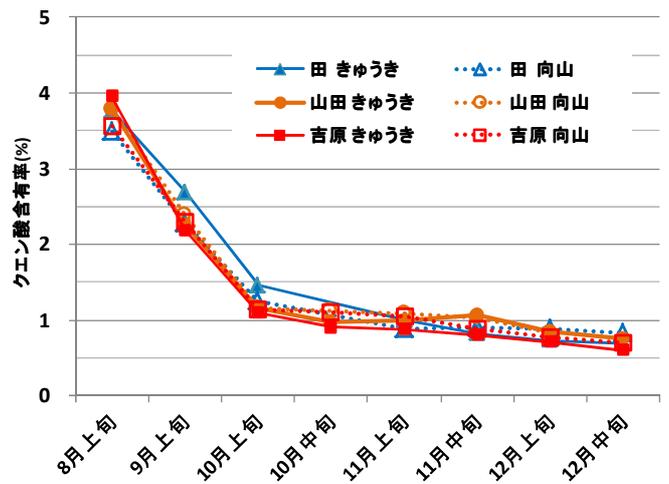


図4 生育期間中のクエン酸含有率の推移(平成27年)